

平成 17 年度試験研究成果書

区分	普及	題名	品種	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種 「おおぞら」
[要約] 飼料用トウモロコシ「おおぞら」は乾物収量、TDN収量に優れた極早生の多収品種である。				
キーワード	トウモロコシ	極早生品種		畜産研究所飼料生産研究室

1. 背景とねらい

本県には現在、飼料用トウモロコシが5680haほど作付けされており、栽培されている品種も極早生種～晩生種まで極めて多品種にわたっている。トウモロコシの品種選定にあたっては収量性や倒伏性、耐病性等の他、その地域の気温や標高等を考慮して確実に黄熟期に達する品種を選定することが重要である。しかしながら、実際の生産現場ではその地域の気象条件等に適合しない品種が用いられていることも多く、期待した収量が確保できない等の問題が生じる場合もある。そこで畜産農家の自給粗飼料の安定生産に資するため、最近の試験成績から本県での高位生産が期待できる飼料用トウモロコシ極早生品種を紹介する。

2. 成果の内容

(1) 品種の来歴

北海道農業研究センターで育成された品種でデント×フリントの単交配品種。
平成15年より全国販売開始。

(2) 品種特性

ア 雄穂抽出期は標準品種である「ディアHT」より6日、絹糸抽出期は6日遅い。また、播種～黄熟期までの所要日数は114日で「ディアHT」と同程度である(表1)。

イ 形態的特性はかん長は「ディアHT」より36cmほど高く、着雌穂高は「ディアHT」より27cm程高い(表1)。

ウ 耐病性ではスス紋病耐性、ゴマ葉枯病は「ディアHT」よりやや強く、黒穂病では弱い。その他の病害は標準品種とほぼ同程度である(表2)。

エ 乾物収量、TDN収量ともに「ディアHT」を凌ぐ(表3)。

オ サイレージ用とうもろこしの総合評価法では3年間連続してAランクである(表3)。

3. 成果活用上の留意事項

(1) 一代雑種品種であるため、自家採種はできない。

(2) 適正栽植本数は 7,500～8,000本/10a

(3) 栽培管理については牧草・飼料作物生産利用指針を基本とすること。

4. 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県下全域(高標高地に適する)。

(2) 期待する活用効果

飼料作物の多収かつ安定した生産が期待される。

普及見込み面積 12ha

5. 当該事項に係る試験研究課題

253 とうもろこし市販品種の特性比較(H17-H22 国庫 令達)

6. 参考資料・文献

(1) 昭和62年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」

(2) 岩手県農政部「牧草・飼料作物生産利用指針」平成8年3月

(3) 岩手県農政部「牧草・飼料作物生産利用指針」平成17年3月

(4) 農林水産省技術会議事務局・農林水産省草地試験場

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領(改訂5版)」平成13年4月

